



特集

言葉と楽しく、一歩ずつ

書写

書くことが、好きになる。
平成二十七年度版『書写』のご紹介

平成二十七年度版『国語』のご紹介

好評
発売中！

「国語教育相談室」で好評連載していた、
青山由紀先生の「古典って楽しい！」が本になりました！
小学校古典の授業を、まんがで分かりやすくご紹介。
そのまま授業に使える資料も豊富に掲載しています。
古典の苦手な先生、若い先生、
ちよつとユニークな授業をしたい先生におすすめです。



- まんがで見る授業の様子
- 具体的な学習のねらい
- 分かりやすい指導のポイント
- そのままコピーして使える資料

[取り上げた教材]
竹取物語／昔話「桃太郎」／枕草子／
平家物語／季節の童謡・唱歌／
春の短歌・俳句／俳句を作る／
故事成語／漢詩／論語



青山由紀／著
吉永直子／まんが

A5判変型(200×220mm)
168ページ
定価1,400円＋税
ISBN978-4-89528-683-1

も 好きになる 古典が

授業
アイディア10
まんがで見る
青山由紀



光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.158 2014(平成26)年4月21日発行

発行人＝常田 寛 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111

www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所＝協和オフセット印刷株式会社 デザイン＝mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。詳しくは、光村図書ホームページをご覧ください。
www.mitsumura-tosho.co.jp 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

きのふの空

「^{いなか}風のふの空のありどころ」という与謝蕪村の俳句が好きだ。

その情景を「昨日と同じように今日も空に^{かぜ}風が上がつている」と読むことも出来るらしいが、ぼくにはどうもそう思えない。風が上がつていたのは昨日のことで、今日の空はからっぽだ。それを見上げながら、昨日は空のあのあたりに風があった、と思い起こしている。そんな空、つまり「マインス風」の今日の空、不在の空だ。

空というのは何もない空間、果てのない空白。そこに雲が流れ、鳥が飛び、風が浮かび、それを見上げる自分がいて、やっとなんとか奥行きが感じられる茫^{ぼう}洋とした広がりである。この句が示唆しているのは空間のことであると同時に時間のことでもある。二百数十年も前のある日に蕪村が見上げた空。そしてその前日の空。それから何万回の日々の空が過ぎ去ったことだろう。ついそんなことまで思ってしまう。

自分の中にも「きのふの空」がある。かつてロンドンに住んでいたころ、よくハムステッド・ヒースという公園を散歩した。その南側にパリアメント・ヒルという高台があり、頂からロンドンの街が見わたせた。そこで風を上げている人をよく見かけた。

あるとき、もう十年以上前のことだが、その丘をのぼると大きな風が目に入った。強い風をうけて堂々と中空を泳いでいた。その風には二本のしっぽがついていたのだが、それが二十メートルを下らない長さなのだ。そんな長いしっぽを初めて見た。そしてその動きに目を奪われた。まるで生きているかのようなだった。くるくると螺旋を描いたかと思えばつぎの瞬間、山脈の稜線になり、それがまた龍のように踊りだす。ひとときとして留まらない風の描画に目が離せなくなった。こんなに美しい絵を見たことがないと思った。丘の上に突っ立ったまま、風が地面に下りてくるまで三十分以上のあいだ眺めていた。

ぼくの頭のかたすみには「きのふの空」がずっとある。そこでは、あのロンドンの風のしっぽが今も絵を描きつづけている。



1956年、東京生まれ。75年頃より広告や雑誌関係のイラストの仕事を始める。79年に渡英、絵本をつくり始める。82年、イギリスの出版社 Andersen Press から、初めての本『Angry Arthur』（文 Hiawyn Oram）を出版し、翌年 Mother Goose 賞を受賞。83年からイギリスに在住。主にイギリスの出版社から絵本を出版してきた。2009年に帰国。著書に『ねむれないひつじのよる』（評論社）など。平成27年度版小学校『国語』教科書2年上巻「ミリーのすてきなぼうし」作者。

CONTENTS

わたしことば きのふの空 ————— きたむらさとし

特集 02 言葉と楽しく、一歩ずつ

平成27年度版『国語』のご紹介

子どもたちが自在に活用できる国語教科書の創造

————— 甲斐睦朗

04 「確かな力」と「学ぶ楽しさ」

- ・単元冒頭・学習の手引き
- ・「あさ」「さあ はじめよう」（1年上）
- ・「言葉の準備運動」（2・3・4年上、5・6年）

12 デジタル教科書で広がる学び

16 作者・筆者からのメッセージ

「かなえられた願い——日本人になること」（6年）

————— ドナルド・キーン

「プラタナスの木」（4年下）

————— 椎名 誠

「なまえつけてよ」（5年）

————— 蜂飼 耳

「想像力のスイッチを入れよう」（5年）

————— 下村健一

24 インタビュー 教科書の表紙に込めた思い

————— 大野八生

子どもたちを
「書写好き」に
特別編

26 書くことが、好きになる。 平成27年度版『書写』のご紹介

————— 宮澤正明

平成26年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

特集

言葉と楽しく、一歩ずつ

平成二十七年年度版『国語』のご紹介

子どもたちに確かな力が身につく、そして、学ぶ楽しさを感じられる、新しい教科書が完成しました。今回は、新しい教科書の特長を取り上げ、その魅力を存分にご紹介します。

子どもたちが自在に活用できる 国語教科書の創造

元国立国語研究所所長 甲斐睦朗

新版国語教科書は、子どもたちが、教室で先生の指導に従って国語を自在に学習できるように編集されています。「自在に」、

生の学習を見わたそう」という見開きのページがあります。四月の初めに、子どもたちが先生に従って、自らの一年間の、上下巻に分かれている場合は半年間の学習内容を具体的に確かめ、心を向けるためのページです。子どもたちには、「見わたす」という言葉が、周りを見ることができ、これからの学校生活に見通しをもつ、つまり、学習に見通しをもち、期待する意味であることに気づいてもらいたいと思います。

十数年前であれば、国語教科書の評価は、①豊かな文学教材や確かな説明文教材が何編も選定されている、②各学年の単元や小単元などが適切に配置されている、③六年間の学習内容が系統的に組み立てられている、④漢字をはじめとする言語事項が適切に配置されている、といった観点で国語教科書の質の高さや使いやすさが評価されがちでありました。しかし、学習の主体である子どもたちへの配慮が、この新版ほどに確かであったでしょうか。

現行の学習指導要領から顕著になったことですが、そうした平面図に書き込める観点だけでは教科書が評価できなくなりました。すなわち、その単元で何を学ぶか、どのような国語力をどのように習得できるかが、

学習の当事者である子どもたちによく分かる教科書が求められているということです。現在、学習している単元・教材のある課題に取り組む場合、それに関連する事項が教科書全体から、あるいは前後する教材などから次々に立ち上がり、引き出されてくるしかけ（装置）が確実に用意されているかが問題になるのです。

そのことを「ネットワーク」という概念で説明してみましよう。子どもたちが、教科書の学習で何らかの事象に関心を寄せた場合、それがある文学教材の作者であろうと、単なる語句であろうと、教科書内の大小の関連項目、あるいは上位・下位項目、連続する段階的な事項との関係が学習者に見えてきて、その事柄がよりよく理解されていきます。新版国語教科書は、何よりも学習者である子どもたち自身を大切に編集されたと確信しています。

かい・むつろう

一九三九年、台湾生まれ。一九六一年、広島大学教育学部卒業。一九七三年、神戸大学大学院修了。愛知教育大学教授、国立国語研究所所員、国立国語研究所所長、京都橋大学教授を歴任。著書に、『読み解き源氏物語 桐壺の光と影』（明治書院）など多数。光村図書小学校「国語」教科書編集委員を務める。



「確かな力」と「学ぶ楽しさ」

今、私たちを取り巻く社会は、日々、グローバル化や情報化が進み、これまでにないほどのスピードで姿を変えています。

未来を担う子どもたちがこうした変化に対応し、

社会をつくる一員となるためには、

自ら学び、考え、他者とともに協調しながら、

あらゆる問題に、柔軟に挑んでいくことが求められます。

「主体的に関わる子ども」

「いつも問い続ける子ども」

「しなやかに生きる子ども」

新しい教科書の編集を始めるにあたって

私たちが目指したのは、このような子どもたちの姿です。

そして、その願いを実現するため、

次の二点を編集の基本方針としました。

■ 確かな力が身につく教科書

■ 学ぶ楽しさを感じられる教科書



■ 確かな力が身につく

自分の言葉で考え、問い続け、解決を図る——言葉の力は、生涯にわたる「生きる力」となります。力が確実に身につくよう、学習の目的を明示し、子どもたちが見通しをもって学べる教科書にしました。

↓ P6 「単元冒頭・学習の手引き」紹介へ

■ 学ぶ楽しさを感じられる

「学ぶこと」そのものの楽しさを味わうとともに、教室という場でみんなで学ぶ楽しさを知ってほしいと考えました。子どもたちの知的好奇心を刺激し、言葉で人とつながる喜びを体験できる教科書にしました。

↓ P8 「あそび」紹介へ

↓ P10 「言葉の準備運動」紹介へ

↓ P10 「言葉の準備運動」紹介へ





単元冒頭・学習の手引き

学びの流れが分かる
身につける力が、はつきり分かる

「何を」「どのように」学ぶのかを明示しました。
はつきりとした見通しをもち、
主体的に学ぶことができるよう、紙面構成を一新しました。

「読むこと」単元

単元目標

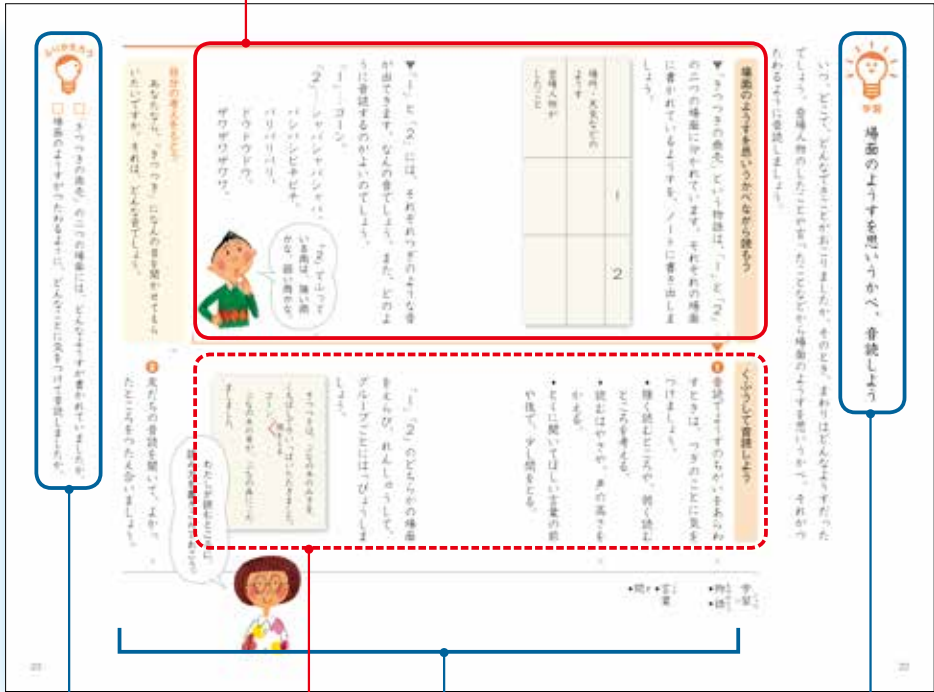
つきたい力と言語活動を
明示しています。



①目標を確認する

▼学習の手引き
(P22-24)

上段 よりよく読むための課題
(指導事項に即した読みの力を育む設問)



②課題に取り組む

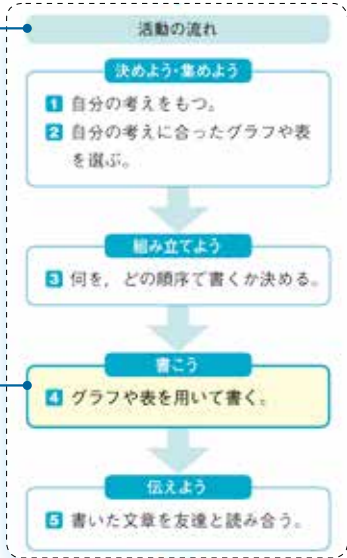
③学習を振り返る

下段 活用するための課題 (言語活動の手順)



「たいせつ」コーナーでは、身につけたい力を箇条書きで整理しています。「話すこと・聞くこと」「書くこと」単元でも同様に「たいせつ」コーナーを設けています。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」単元



単元冒頭の「活動の流れ」で、学習の見通しをもつことができます。

単元での活動の重点には色を付け、明確に示しています。

▶5年「グラフや表を用いて書こう」冒頭 (P149)

指導事項を焦点化して

横浜国立大学教授 高木まさき

言語活動を通して指導事項を身につける——そのような授業を展開するには、「指導事項（身につける力）の焦点化」が何より重要です。

新しい教科書では、これを実現すべく、「読むこと」の学習の手引きを二段組みで構成し、見開きで一覧できるように工夫しました。下段の言語活動を通して、上段の読みの課題に取り組む、指導事項に即した力を身につけるといふ学習のあり方を、より明確に示したのです。

大切なのは、言語活動と教材の読み取りを一体化させて学習を進めること。そのために、ぜひ、この手引きをご活用いただきたいと願っています。





「あさ」「さあはじめよう」(一年上) 国語の学習開きを、楽しく①



▶1年上「あさ」(P1)



▲1年上「さあはじめよう」(P9)

■第一教材「あさ」

一年生。国語学習のすべてが、ここから始まります。

入学前の体験を生かしながら、楽しく国語に出会い、学習の基本を身につけていけるよう構成しました。

入門期第一教材は、国語との出会い。入学したばかりの子どもたちのわくわくした気持ちを大切に、等身大の子どもたちが、友達や先生と触れ合う場面を取り上げました。

絵とともに示した詩「あさ」は、小学校『国語』の編集委員でもある作家、中川李枝子さんの書きおろしです。

手をつなぐ、輪になる、広がる——これから一緒に学んでいく友達や先生と、声を出しながら身体を動かして、学び合うクラスづくりをしていただけたらと思います。

■「さあはじめよう」

第一教材に続く、「さあはじめよう」は、国語学習の「スタートブック」としての役割をもちます。そのことがひと目で分かるよう、ページ全体を緑で囲み、以降の教材と区別しました。幼稚園・保育所での体験を生かしながら、小学校で学ぶための基本的な姿勢を確認していきます。

「さあはじめよう」教材一覧

- ・なんて、いおうかな
(学校生活の言葉を知る)
- ・どんな おはなしか
(お話に出会う)
- ・姿勢と鉛筆の唱え歌
(正しい姿勢で、正しく持つ)
- ・どうぞ よろしく
(初めて名前を書く)
- ・ここの おおきさ、どう するの
(適切な声量を知る)
- ・うたに あわせて あいうえお
(あいうえおと出会う)
- ・ことはを つくろう
(文字に親しむ)



みんなで学ぶ楽しさを

筑波大学附属小学校教諭
青山由紀

第一教材「あさ」では、ぜひ、子どもたちに「集団で学ぶ楽しさ」を経験してもらいたいと思います。

絵の中に、言葉にしたくなるしかけがいっぱい。ここでは、自由に言葉を出させたいですね。一人が何かに見つけると、きっと別の子が他に気づくはず。友達の言葉を聞き、自分の言葉をつなげていくことで、みんなで学ぶという国語学習の素地をつくることができます。「本当たり」「他にもあるよ!」という声が上がると、そんな授業になるといいですね。授業を構想する前にぜひ、続「さあはじめよう」までを通してご覧ください。「あさ」での経験が生きる学習が随所に見つかるはずです。





「言葉の準備運動」(二・三・四年上、五・六年)

国語の学習開きを、楽しく②

四月、新しい学習や新しいクラスがスタートする時期に、心や身体が緊張してこわばってしまう子どもたちがいるのではないのでしょうか。そんな子どもたちの心と身体を解きほぐし、ともに学ぶための関係性づくりができる教材を設けました。

「言葉の準備運動」とは

二・六年の学年初めには、声や身体を使って、遊びの要素も取り入れながら、子どもたちの緊張を解きほぐす「言葉の準備運動」の系列を設けました。

ゲーム的な活動を通して、場の雰囲気づくりを行うことは、演劇などのワークショップでも、「アイスブレイク」として取り入れられています。演出家として多くのワークショップを行ってこられた鴻上尚史さん(※)にもアドバイスをいただきました。各学年、発達段階に即した活動を位置づけました。

※鴻上尚史さんに、アイスブレイクについてお話を伺ったインタビューは、「小学校国語教育相談室81号」に掲載されています。

▼2年上「じゅんばんに ならぼう」(P6)



初めにイラストを大きく示し、活動のイメージがもてるようにしました。

活動の手順を、イラストとともに分かりやすく示しました。

活動のアレンジ例を示すことで、繰り返し楽しんで行えるようにしました。

活動のラインナップ

「聞くこと」を大切にしながら簡単なやり取りを通して、子どもたちの心と身体を和らげます。



みんなで輪になり、一人ずつ自己紹介をする。前の人の話を繰り返してから、自分のことを話す。
3年上「よく聞いて、じこしょうかい」(P8)



一つの言葉をばらばらにし、一人1音ずつ一斉に声に出す。聞く側は、言われた言葉を聞き取る。
4年上「ばらばら言葉を聞き取ろう」(P8)



友達に1分間インタビューをし、その内容の中で特に印象に残ったことを1文でみんなに紹介する。
5年「教えて、あなたのこと」(P10)



5、6人のグループで輪になり、一人1文ずつ話をつないで、2周する間に一つの話を作る。
6年「つないで、つないで、一つのお話」(P10)

声と身体で遊ぼう

作家・演出家 鴻上尚史

アイスブレイクでいちばん大事なのは、とにかくリーダーが楽しめ、周りが楽しめ、楽しく始まり楽しく終わること。だから、始める前には必ず、「これは遊びであって、お互いの緊張をほぐすためにするんだ」ということを楽しく参加者に伝える必要があります。そうでなければ、「うまくやらないや」という義務感ばかりが芽生え、緊張が余計に増すことになりかねません。

学年初めの四月だけでなく、その後も折に触れ、アイスブレイクの時間を取り入れていくといいのではないのでしょうか。そうしてなんでも言える場を作って、コミュニケーションの力を伸ばしていつてもらいたいですね。





デジタル教科書で広がる学び

情報化社会における 新たな学習スタイル

今日の情報化社会では、あらゆる領域での活動基盤として、新しい知識・情報・技術が重要性を増しています。そんななか、「教育の情報化」の推進は、二十一世紀に求められる学びと学校を創造するうえでの鍵であると考えられています（※1）。

そこでポイントとなるのが、「教科書のデジタル化」です。主たる学習材である教科書がデジタル化されることで得られる学習効果は大きく、光村図書では、ICT（情報通信技術）を活用した教科書の新しい形や学習スタイルを、平成十三年から意欲的に追究し続けています。

導入が進む 指導者用デジタル教科書

デジタル教科書は、大きく「指導者用デジタル教科書」と「学習者用デジタル教科書」の二つに分けて定義づけられます（※1）。

指導者用デジタル教科書は、平成十七年から発売されている教科書準拠教材で、教師が、電子黒板などによって教科書紙面を拡大提示し、授業に活用するソフトウェアです。国語科では光村図書が初めて開発し、現在、約四千校の小学校で導入されています。児童の集中力が高まる、理解が深まるなど、高い評価をいただいています。

「教育の情報化」に関わる国の施策も相まって、全国の公立学校での整備は年々進み、文部科学省の調査によると、その整備率は、三十二・五パーセントにも上っています（※2）。これに伴い、今後、授業の中でデジタル教科書が果たす役割は、より大きくなっていくことでしょう。

開発が進む学習者用 デジタル教科書

学習者用デジタル教科書は、平成二十三年二十五年度に、文部科学省の「学びのイノベーション事業」で開発された新しい教科書・教材の形です。同時に、総務省による

「フューチャースクール推進事業」で実証研究が行われました（※3）。ただ、現時点では、商品として販売されていません。

研究では、タブレットなどの情報端末を児童に一人一台整備し、デジタル教科書が活用されました。より高度なICTを利用し、教師と児童、児童と児童がコミュニケーションや評価をしながら協働的に学習を進めたり、自主的な個別学習を促したりするスタイルが考えられています。

光村図書では、こうした先進事業を継承しつつ、平成二十七年に向けて、学習者用デジタル教科書の開発を積極的に進めています。「学習者用」は、一斉・協働・個別という学習の形だけでなく、教科特性、特別な支援を要する児童への配慮など、紙の教科書だけでは難しい多様な学習スタイルへの対応が求められます。さらに、紙の教科書との融合を目ざし、学びのあり方と可能性について研究を進めていきます。国語の授業が、もっと楽しく、もっと豊かになることを願って。

※1 文部科学省「教育の情報化ビジョン」（平成二十三年四月二十八日）

※2 文部科学省「平成二十四年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」（平成二十五年九月）

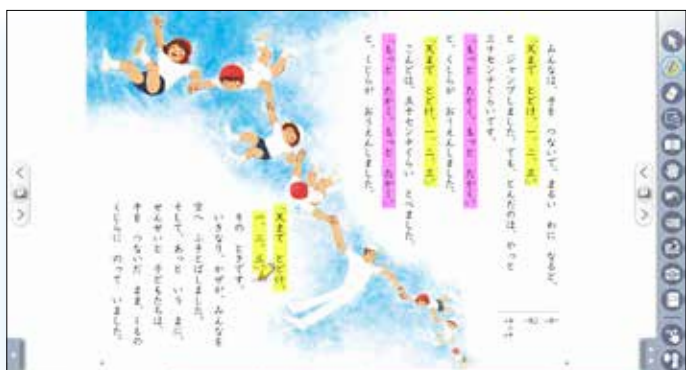
※3 平成二十三年度より、文部科学省と総務省が連携して、研究推進校（小学校十校、中学校八校、特別支援校二校）において実証研究が行われた。

こんな場面で、 指導者用デジタル教科書

1 みんなでしっかり読み、考えさせる。

発話者ごとに色分けして文学教材を読み進めるなど、理解させたいことを教科書の画面に書き込み、クラス全体で共有しながら、学習を進めることができます。

▼1年下「くじらぐも」



読み物教材に、挿絵の並べ替えができる機能を収録。理由を説明しながら、物語の順に挿絵を並べ替えるなどの学習に生かれます。



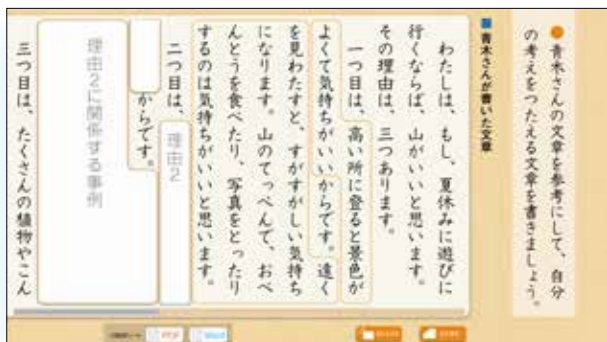
2 主体的に、言語活動に取り組ませる。

「話すこと・聞くこと」の活動場面の動画や「書くこと」の作例を、デジタル教科書を使って示すことで、言語活動のイメージやモデルが捉えやすくなります。子どもたちの主体的な学習を手助けし、充実した言語活動へと導きます。

話すときの姿勢・聞くときの態度など、「話すこと・聞くこと」の学習では、音声だけでなく動画の活用が有効です。授業に取り入れることで、学習要素を押さえることができます。

教科書の作例の全体を提示したり、部分を隠して提示したりすることができます。書く内容の確認、書き換えがしやすく、書くことが苦手な子への支援がしやすくなります。

▼4年上「だれもが関わり合えるように」



▲4年上「自分の考えをつたえるには」



これまで、デジタル教科書の操作性は、教科や教科書会社によって異なっていました。それを統一し、さまざまな端末で利用できるマルチプラットフォームを開発するべく、平成二十五年九月、光村図書を含む教科書会社十二社と株式会社日立ソリューションズからなるコンソーシアム「CoNETS（コネッツ）」が発足しました。

これからのデジタル教科書

「CoNETS」のコンセプトは、「デジタル教科書のスタンダードを目指す」。それにより、教科や学年を超えた新たな学びが生まれます。

平成二十七年四月の小学校の教科書改訂時をスタートに、中学校、高等学校の順で、製品をリリースしていきます。

「CoNETS」は、教科書づくりで培ったノウハウで、デジタル教科書の新たな可能性を形にし、これからの子どもたちの学びと教育現場をサポートしていきます。

つながる。ひろがる。私の教科書



www.conets.jp



映像資料「馬頭琴の演奏」(2年下「スーホの白い馬」)。必要な知識を補ったり、想像を広げる助けとなったりするような映像資料が充実しています。

3 知識を補い、感性を磨く。

読み物教材の話題・題材に関連した映像資料によって、必要な知識を効果的に補うことができます。また、狂言「柿山伏」の動画など、伝統的な言語文化の世界を味わうことのできる映像資料も収録しています。豊富な映像資料で、子どもたちの知的好奇心を刺激します。

4 言語事項を楽しく定着させる。

筆順アニメーションやフラッシュカードを使った漢字学習、カードなどを動かし、課題に取り組んで学ぶ言語教材など、言語事項の定着が楽しく図れます。

▶フラッシュカード



▼漢字の筆順アニメーション



空書きするときに便利な筆順アニメーションに加え、新出漢字を使ったさまざまな言葉を収めたフラッシュカードで、漢字学習の負担を軽減します。

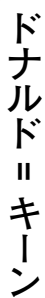
5 他教科の学習とつなげる。

平成二十七年年度版から、光村図書の指導者用デジタル教科書は、「国語」「書写」「生活」「社会」の四教科すべての展開となります。一つの画面で二つの教科書を表示できるので、国語の「書くこと」の学習で、書写の教科書にある字形や書き方の例を提示するなど、教科を横断した授業がよりスムーズに行えます。



▲二つのデジタル教科書の画面を同時に表示できます(左が書写、右が国語)。

日本文学研究者



— 100 —

私は、アダム・オースティンとヨシアデで生まれながら、その母の故郷は、青島の隣りに日本を通過するところである。私はほとんど英語しか話さず、そして、それ以外のことには、たまたま小づからに事から、私は、日本語と日本文化に関する、長い間の道を歩き始めることになりなされた。そして、このことが、日本国籍を取得しました。今、私は再びそれを追っています。

[illegible]

たのである。同じ日本人として、それを信じてゐるべきです。よい日本文学を讀むこと、そして、それに対する知識があることです。それから、昔のことは、他の國では常識ではないものもいろいろあります。日本にあつては外國にならずとも、日本語には、外國にあるやうなことがよく見られる。これを日本によつて改め、知ることにするべきです。世界人にならなければならぬのです。そしてこの心こそ、時空を超えて愛するものがあらざる人間として、眞實たるべきものです。

私が初めて日本文学に出会ったのは十八歳のとき、ニューヨークの書店で偶然のように手にした『源氏物語』でした。そのときは、まさか自分が将来日本国籍を取り、

『源氏物語』の世界には、争いがありま

私が十八歳だった一九四〇年当時、ヨ―

出す言葉一つをとっても、どうすれば美し

次は、折り方。どういふふうに手紙を折

きなかつた世界でした。

(談)

一九三三年、ニューヨーク市生まれ。日本文学研究者、文芸評論家。コロンビア大学、同大学院、ケンブリッジ大学を経て、一九五三年、京都大学大学院に留学。一九五五年からコロンビア大学

作者・筆者からのメッセージ

「ブラタナスの木」(四年下)

作家
椎名 誠

3
心に残ったことを感想文に書こう

ブラタナスの木

椎名 誠
中島 健一 監修

「マーちゃんといつも遊んでいる仲間。せいの高い花鳥君と、ハイソックスが好きなクニスケ。それにアラマちゃん。本当は花鳥君さんというのだけれど、ほくせが「あらま」だから、いつのまにか、そうよばれるようになった。四年生になっても、アラマは別名にならなかった。それまではずっと同じアラマで、葉も茂ったやうにまだに伸びた。



「マーちゃんといつも遊んでいる仲間。せいの高い花鳥君と、ハイソックスが好きなクニスケ。それにアラマちゃん。本当は花鳥君さんというのだけれど、ほくせが「あらま」だから、いつのまにか、そうよばれるようになった。四年生になっても、アラマは別名にならなかった。それまではずっと同じアラマで、葉も茂ったやうにまだに伸びた。



4年生のマーちゃん、花鳥君、クニスケ、アラマちゃんは、仲良しの遊び友達。1本の古いブラタナスの木が生える公園で遊ぶうちに、あるおじいさんと親しくなり、木の根の存在や役割について教わる。夏休み後、おじいさんのいない公園で、台風によって切り株だけになったブラタナスの木を目にして、4人は地中に広がる根を思いながら、切り株の上に立つ。木の根がたたえる力、その恵みをさわやかに描いた作品。

切り株が教えてくれたこと

その本の名前は残念ながら忘れてしまった。子供向けに書かれた学習絵本とでもいうのだろうか、記憶の中にあるタイトルは「木」だった。木について書いてある。まず話は文字の説明から始まったように記憶しているが、最も強く印象に残ったのは、木は上下対称である、というひとことだった。つまり地上から出ている木は、地中でも、地上で見る木と同じような姿をしているという指摘である。

全ての木にそれがあてはまるとは書いていなかったようだが、まあ、ある種の典型的な木を指しているのだろう。だからその木を何かものすごい力ですっぱり引き抜いてしまうと、地上から上の木と同じ形をしたものが地下から現れる。地下のそれは根であるが、考え方としては、その木を逆さ

にして地面に植えてしまうと、空中に広がった根は今まで地上に広がっていた枝と同じような状態になるということだ。

子供向けに書かれている本だから、深い植物学的な記述は、それ以上はなかったように思うが、多くの思考の中にその指摘は深く残った。木をそれまであまりにも知らな過ぎたという悔恨がある。また、それだけ大きく地中に根を張らないと地上で見るゆさゆさした緑たつぷりの健全な枝葉を維持することができないというわけだ。

その当時、ぼくはよく山歩きをしていた。どんな山でも、ふもとから高みを目指していく間にはおびたらしい種類の樹木が茂っている。ああ、これらの木も地上と同じように大地に深く根を張っているのだなあ、とそれまで考えもしなかったある種の感動を得たのだった。高度を増していくうちに植生はどんどん変わっていく、もう大きな木は見られなくなっていく。山の岩盤がそれだけ固くなっているのだな、ということも今まであまり考えずにいたことだった。

山でも平地でも、ときおり大きな木の切り株を見る。いずれも何かの理由で伐採し

たのだろうが、切り倒された地上から上の木は、木としての生命を当然終えているはずである。けれど切り株から下の生命はまだ生きている。これまで支えていた地上から上の幹や枝葉をそっくり失った切り株を、今までにない目で意識するようになったのもその頃からである。

そのあたりに生きる人間たちにとって、切り株から下の根の世界はもう何の存在感も意味もなくなってしまうのだろうか。「空虚」という思いが頭をよぎったが、それでも地中ではその根を利用したおびたらしい小動物や虫たち、そしてバクテリアなどが変わらず活発に生きているのだろうな、という少し違った見方もできるようになった。けれど人間になぞらえれば、木を幹から切り倒してしまうということは、その木のそのあと何年続くだろうかわからない、たぶん途方もなく長い、きつと人間たちよりもはるかに長い命を絶ってしまったということとである。

話は変わるが、一九七八年から十年間ほど東北で大きな話題になった青秋林道(青森県と秋田県を結ぶスーパー林道)問題と

いうのがあった。場所は白神山地。積雪量の多い奥深き山だから、道を作ったって一年のうち八か月は積雪で使えず、雪が消えても二か月は補修工事となるのが目に見えている。なんとも意図不明の大規模工事計画だった。そのスーパー林道を建設する予定のエリアに樹齢四百年ともなるブナの大木があつて、数百本ほども切り倒される計画になっていた。

ある保護団体に加わって、ぼくはその反対運動のために、四季それぞれ道路建設予定現場に行つてキャンプし、道路建設中止のひとつの法律的素材になるクマゲラ(日本最大のキツツキ)の営巣地探しをしていた。切り倒される予定になっている数百本のブナは、それぞれ簡単には取り外せない金属製の赤いはちまきのようなものをくくりつけられていた。

結果的に言えばこの計画は阻止され、今は世界遺産となつて許可なしでは入山できないようになっていくが、ちっぽけな力ながらよくその反対運動に駆り立てた源は、その一本の木を描いた絵本だったのである。

しいな・まこと

一九四四年、東京都生まれ。作家。一九七九年より、小説、エッセイ、ルポなどの作家活動に入る。主な著書に、『天の系譜』(講談社)、『怪物語』(集英社)、『アド・バード』(集英社)、『中国の鳥』(新潮社)、『黄金時代』(文藝春秋)、『アイフラネット』(講談社)など。

作者・筆者からのメッセージ

「なまえつけてよ」(五年)

詩人・作家
蜂飼 耳



なまえつけてよ

蜂飼 耳作
北沢 秀子 挿絵

学校からの帰り道のことだ。牧場のわきを通りかかったとき、春花は、そこに見えない子馬がいることに気がついた。
「つやつやした毛なみの、茶色の子馬だ。ちんちんまっして、どきどき、目が合った。子馬は、ばかりとまばたきました。春花は、その美しい目に、すい、これこそ、なまえつけよう。」



作業をしていた牧場のおばさんち。手を止めて、春花に話しかけた。
「この子、なまえつけようね。」
「春花、なんていうんですか。」
「春花、春花はいい。」
「春花、まだ考えてないの。そうか、春花、つけてよ。」
「春花のときから、春花、その小さな牧場のわきを通って通学しているの。牧場のおばさんとは、いつのまにか顔見知りになっていた。でも、あいにく通学するだけだ。それなのに、子馬の名前をつけさせてくれるというのだ。」
「じゃあ、考えてみます。あしたまでに。」
「たのむね。」
おばさん、春花は歩きだした。歩きながら通学路だ。けれど、まるで知らない道を歩いているような気がしてくる。
春花につけてお目されるなんて、初めてのことで、これまでに自分でお目をつけたいことがある生き物と想い出す。お目するのとは、おどろしい気分。それ



春花は、学校からの帰り道、牧場で、生まれたばかりの子馬を見つける。牧場のおばさんに、子馬の名前をつけてほしいと頼まれ、「明日までに」と約束する。しかし、翌日、状況が変わって約束が果たせなくなったことを、おばさんから告げられる。がっかりする春花だが、事情を知る、同じ組の転校生・勇太の思いがけない行動に心が少し明るくなって——等身大の子どもの関わりと心情を丁寧に描く。

紙の馬に 気持ちを託して

「なまえつけてよ」の主人公は、春花という小学五年生の女の子です。ある日、牧場で仕事をしているおばさんから、子馬に名前をつけてほしいと頼まれます。子どもにとって、それはとてもわくわくする体験ではないでしょうか。いつも眺めているだけの対象だった馬が、よりいっそう身近な存在となるような体験です。同時に、大人から頼まれたことなので、緊張や責任感も湧いてくるのです。喜びと迷いと緊張感が入りまじる、充実したひとときを春花は経験します。

この物語のもう一人の主人公といってもよい人物は、勇太です。しばらく前に、春花の小学校へ転校してきた勇太に対して、春花はどう接したらよいのか迷います。同級生ということもあって、もつと距離を縮

めたい、仲よくなろう、と思っではいるのですが、なかなかきっかけがつかめません。子馬に名前をつけることになった、と春花は伝えますが、素直に驚くのは、勇太ではなく、その弟である陸だけです。勇太のほうは、その場では、あまり関心がないような態度を示します。とはいえ、まったく関心がないわけではないのです。だからこそ、次の日、子馬の名前が決まる場へ陸とともにやって来るのです。

結局、牧場と子馬を取り巻く状況や都合が急に変わった結果、春花が一生懸命考え、胸に秘めてその場で運んできた名前は、つけられないことになってしまいます。もちろん、春花はがっかりします。でも、状況が変わったのだから仕方ないと、飲みこみます。その場に居合わせた勇太と陸は、春花の沈んだようすを目にして、どうすることもできず、少し慌てます。こんなとき、いったいどうしたらよいでしょうか。どんな態度をとり、どんな言葉をかけることができるでしょう。

翌日、学校で勇太が春花に対してしたことは何でしょう。勇太は、紙で折った馬を

春花にそつと渡したのです。紙の馬をひっくり返すと、なまえつけてよ、と書かれています。これは勇太なりに考えたブレゼントのようなものなのです。転校生で、不器用なところもある男の子ですが、同級生の落胆したすがたを目にして、自分なりに何かしたいと思ったわけです。がっかりしたその気持ちはわかるよ、と伝えたいのです。勇太は、それを何か行動で表したい、という気持ちになったのです。あの子馬の代わりに、この紙の馬に名前をつけてよ、というアイデアなのです。春花は、勇太がこんなことをしてくれるとは、と意外な気持ちになります。うれしさと、少し笑ってしまいうような気持ちが湧いてきて、春花の心は明るくなるのです。

勇太が春花のためにしたことは、ささやかなことかもしれませんが、けれど、それは確実に、春花の心を明るくします。ささやかなことであっても、相手に共感しておこなう事は、相手の心に届くものではないでしょうか。春花は、この出来事を通して、勇太の知らなかった面を知ることになります。優しいところや、思いやりのある面を。

友達の前まで知らなかった好ましい一面に触れることは一つの喜びです。勇太が渡したものは自分で折った紙の馬ですが、それは、勇太なりの優しさを紙の馬に託したという意味なのです。

さて、春花が考えた子馬の名前は何かだったでしょう。この作品の中に、それは書いてありません。あえて書きませんでした。子馬のすがたを思い浮かべながら、読者のみなさんに、それぞれ自由に考えていただきたかったからです。一生懸命に考えた名前は使われない結果となりましたが、その代わり、思いがけず、春花は勇太の優しい面に触れることになりました。それは同時に、勇太を少し成長させることでもあったのです。

人の気持ちと向き合い、自分にできることは何かを考え、ときには思い切って実行することは、生きていく上で大切なことであり、喜びの源ともなることです。この作品では、とくにその点を表したいと思いましたが、楽しんで読んでいただければ幸いです。

はちかい・みみ

一九七四年、神奈川県生まれ。詩人・作家。著書に絵本「うきわね」(フロンティア新社) 小説「転身」(集英社) など。

作者・筆者からのメッセージ

「想像力のスイッチを入れよう」
(五年)



ジャーナリスト
しもむらけんいち
下村健一

想像力のスイッチを入れよう



事例と意見の関係をおさえて、自分の考えをまとめるよう練習は、どんな事例も挙げて考えを述べているからいい。自分の知識や経験などから問題についてならぬという読み、考えをまとめるよう。

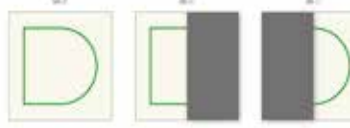
学校のマラソン大会で、あなたに十位に入ってもらえたら、貴國のマラソン大会への参加は、五倍はたやすくなる。理由は、あなたがったあなたには、こう言うところだ。

貴國より、五倍はたやすくてしましよした。

ダゲウマ 様

「でも、三軒村もアイムがなまってるだけです。」
このように、同じ出来事でも、何を此事と想うかによつて、絶悟する内容がずいぶんちがってくる。

これは、学校や家庭での会議のときに見られることではない。わたし自身、テレビで「アンダー・ザ・カット」を観たとき、さきほど言った段々²の世の中の情勢

[illegible]

「人気があるサッカーチームの新しい監督として、Aさんに注目が集まっている」という状況を設定し、メディアの特性や、情報を受け取る側の姿勢——「想像力のスイッチ」を入れることについて説明した文章。その想像の観点を、『事実かな、印象かな。』『他の見方もないかな。』『何がかくれているかな。』『まだ分からないよね。』という四つのキーワードとして示し、子どもたちに分かりやすい例を挙げながら説明を展開し、自らの考えを伝えている。

情報に振り回されない
ための、四つのハテナ

右のタイトルは、メディアリテラシーについて講演をする際に私がいつも掲げている演題です。

①事実かな、印象かな？ ②他の見方もないかな？ ③何が隠れているかな？ ④まだ分からないよね？ —— インターネットやテレビや新聞から情報を取り込むとき、独り言のようにこの四つのハテナをつぶやさながら受け止めよう。そうすれば、もう簡単には踊らされなくなるよ、という「おまじない」のような話です。中学校の出張授業から経営者団体での講話まで、幅広い層の皆さんに、実際のニュースに当てはめながらお話ししています。

特に子どもたちの場合、家でテレビのニュース・情報番組と一緒に見ながら、横で親御さんがこの四つをただクイズのよう

につぶやいているだけで、とりあえず鵜呑みの免れることが出来るという速攻性があるようです。聴講後に、時々そんな我が家の実施報告をいただきます。

今回は、それを初めて小学生向けに、リメイクしてみました。本文中、『』で括った四つの言葉が、まさにこの「四つのハテナ」に該当します。「情報」というものを黒板消しに置き換えて①③を喩えるならば、「事実には、印象という粉がよく付着している。この粉をちゃんとふき取って、黒板消し本体を見ようね」というのが、①の話。「長辺の方から見るか、短辺の方から見るか、あるいは斜めから見るか。見方によって、目に映る黒板消しの姿も変わるよね」というのが、②の話。「黒板消しについてはよく見えた。でも、チョークとか定規とか、他の物の存在を忘れてないかな」というのが、③の話です。

子どもたちからは、「②」と③はどう違うの？」という質問が出るかもしれません。両者の違いは、明確です。②は、現にスポットライトの中に置かれている情報について、

見つめ直す作業。③は、そこから目を転じて、周囲の暗がりを取り起す作業です。

——私がこうしたメディアリテラシー教育にこだわることになった直接のきっかけは、一九九四年に起きた松本サリン事件でした。後にカルト団体の犯行と確定しますが、当初は第一通報者の会社員K氏が犯人扱いの報道をされ、それに乗った全国の人たちから、義憤に駆られた手紙や無言電話が、そのK氏の自宅に殺到しました。「早く白状しろ」「人でなし」といった言葉を浴びせられ、重症の被害者でありながら社会生活にも深刻な影響を受ける二次被害に見舞われました。そのとき、警察情報に鵜呑みにしたメディアと、その報道を鵜呑みにした多くの善良な国民が、K氏にとって「加害者」になってしまったのです。

誰も真犯人を知らなかったんだから仕方ないよ、という話ではありません。③の思考態度さえあれば、「犯人はKだな」という即断ではなく、「犯人はKか、まだ見えないXだな」という保留が誰でも出来たのです。

こうしたことは、程度の差こそあれ、その後も続発しています。ライン、フェイスブック、ツイッターといった情報発信機能が当時より格段に発達している今、いつ、あなたの教え子が加害者の列に加わるか、分かりません。「四つのハテナ」の習得は、情報洪水の被害者にならないための自衛であると同時に、加害者にならないための責任でもあるのです。

冒頭の方で、この「四つのハテナ」は一回で効く即効薬だと申しました。そういう売り文句は少々胡散臭い感じがしますが（笑）、実はこれ、連続使用していると、じわじわ体質改善が図れる漢方薬でもあります。この単元が終わってから、子どもたちの情報摂取の機会に終わりはありません。ぜひ折に触れ、実際のニュースを教材に、「ちょっとここで、想像力のスイッチをオンにしてみようか」と、思い出させてあげて下さい。社会科学で学ぶ《知識》と、国語科で学ぶこの《眼力》によって、子どもたちが情報化社会をしつかり歩いてゆくことを、筆者として願ってやみません。

しもむら・けんいち

一九六〇年、東京で生まれ、ジャーナリスト、キャスターなど。東京大学卒業後、TBSに入社。現場取材リポーター、キャスターとして活躍。一九九九年TBS退社後は、市民メディアアドバイザーとしても活動。著書に「マスコミは何を伝えないか」(岩波書店)など。

作者・筆者からのメッセージ



イラストレーター・造園家
おのの やよい
大野八生

教科書の表紙に込めた思い

子どもたちとさまざまな動物たちがのびやかに描かれた、明るく元気な表紙——好評をいただいた現行版に引き続き、新しい教科書の表紙を描いてくださったのは、イラストレーターの大野八生さん。造園家としても活動されている大野さんに、新しい表紙に込めた思いについて、お話を伺いました。

文：宇宿真理恵 写真：鈴木俊介

——新しい教科書を手にする子どもたちに、どんなところを楽しんでほしいですか。

光村図書の教科書には一冊ずつ、「かざぐるま」「たんぼぼ」など、タイトルが付いていますよね。今の表紙と同じように今回も、ストーリーのある絵にしたかったの、そのタイトルを大きさにならない程度にどこかしらに組み込みました。見る子どもたちのイメージに任せたかったので、そうきっちり描き込んではいませんが。表紙紙と裏表紙合わせて、さまざまな見方、楽しみ方ができるように工夫したつもりです、。

よく見てみると、「あつ、こんなところにこんな動物が!」とか、「おや、ここにも何か隠れている!」とか。そういうちょっとしたストーリーを見つけて、楽しんでもらえたらいいですね。

——六年の表紙は、一年から五年の表紙で描かれた動物たちがすべて登場する、オールスターバジョンになっていますね。

そうですね。わたしもそうでしたけど、六年生って、それぞれに好みがはっきりしてきたり自分のやりたいことが見えてきたりする時期だと思うんです。中学校や高校に進むと考えが変わったり、「やっぱり無理かな」と思ったり。そういうことを繰り返

しょうか。あの、実は裏表紙に、こっそりというわけでもないんですけど、オオスカシバっていう蛾の仲間を描いたんです。

以前、ある方が「うちにはハミングバードが本当によく来るのよ」ってお話しされていたんですが、ハミングバードって、日本にはいないんです。実は、オオスカシバも空中で止まりながら花の蜜を吸うので、羽の動かし方なんか、本当にハミングバードにそっくりなんです。だからそのとき、「あつ、絶対これを見たんだな」とピンと来ました(笑)。本州より南に住んでいる人は、きっと一度は見たことがあると思います。

そんな小さな虫や動物もこっそり描いているので、ぜひ探してみてください。

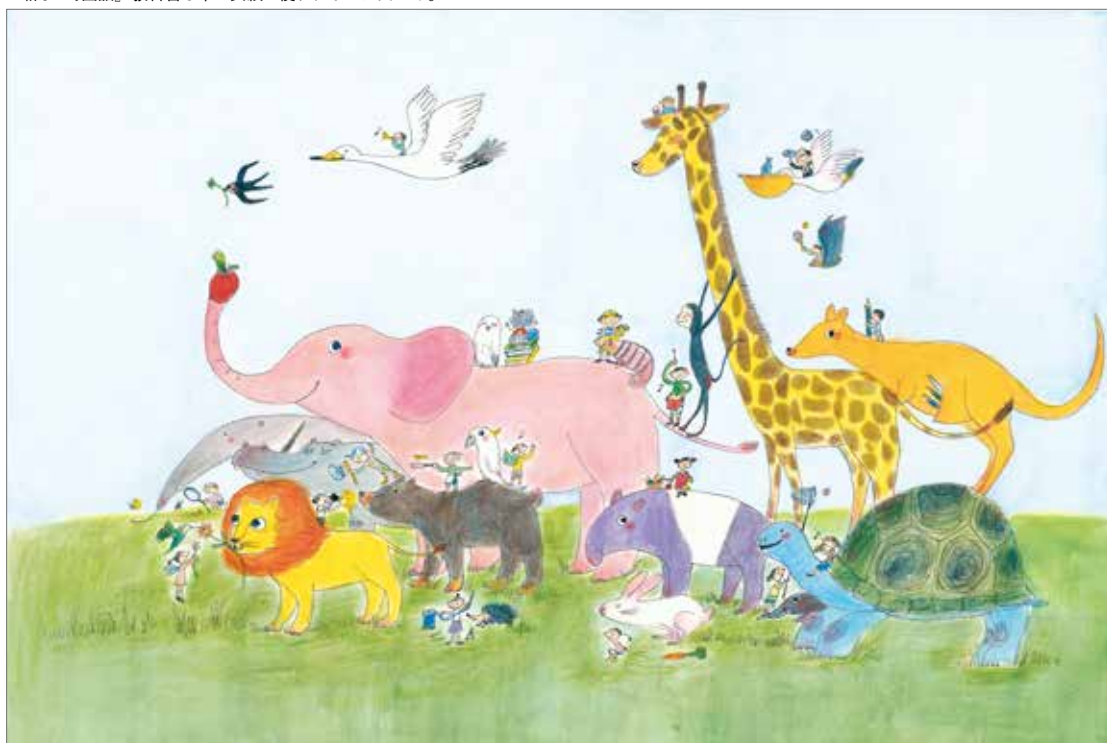
——子どもたちの反応が楽しみです。ありがとうございます。

おのの やよい

一九六九年、千葉県生まれ。園芸好きの祖父のあとを継いで植物に親しみ、植物に関わるさまざまな仕事を経て造園家として独立。そのいっぽうで、女子美術短期大学卒業後に描き続けてきたイラストが評価され、雑誌・書籍などでイラストレーターとしても活躍中。著書に、絵と文を手がけた絵本『わのこたち』『じょうろさん』(ともに偕成社)などがある。



▼新しい『国語』教科書6年の表紙に使われているイラスト。



▼3年下の表紙に使われているイラスト。



——新しい教科書の表紙の中で、大野さんのお気に入りの一枚はどれでしょう。

そうですね……難しい。強いて挙げるなら、ハミングバードがいる三年の下巻で



▲新版 1年P1
1年冒頭のページ。平仮名「あ」「さ」の空書きをし、楽しく書写の学習をスタートさせます。

- るにつれて増える「書写嫌い」の実態があります。自分の書く文字に劣等感をもつ、書写の時間の意義を見いだせないなどといった理由から、だんだんと書くことへの興味・関心が薄れる子が多くなっています。そんな子どもたちに、書くことの楽しさを伝えたいという思いから、教科書の編集がスタートしました。
- このような子どもを育てるには、まず、相手や目的、場面に応じて書くための確かな技能を定着させる必要があります。これは、自分の文字に自信をもつために不可欠なことです。そして、技能の定着のためには、さまざまな体験を通して、文字を書くことの楽しさや価値を実感できるようにすることが重要です。
- 新版の編集にあたっては、子どもたちの意欲を喚起する紙面や学習活動を位置づけるのもちろんのこと、子ども自身が主体的に考えて取り組み、力を発揮し、何かが身についたときに得られる充足感や達成感、つまり書くことの「楽しさ」が実感できる教科書を目指しました。
- この考え方をもとに掲げたのが、次のコンセプトです。
- ① 基礎・基本が、自然に身につく教科書
 - ② 書写の力が、日常に広がる教科書



自分の文字に自信をもち、進んで文
や文章を書くことのできる児童

この子ども像の背景には、学年が上

はじめに
――目ざした子ども像

新版の編集会議は、「六年間の学習で目ざす子ども像」について話し合うところから始まりました。そこから生まれたのが、次のような子ども像です。

みやざわまさあき
宮澤正明
山梨大学大学院教育学研究科教授。都留文科大学、大東文化大学、および二松学舎大学大学院講師。1952年、静岡県生まれ。光村図書 小・中学校書写教科書の代表編集委員、高等学校書道教科書の編集委員を務める。著書に、『新・字形と筆順』（光村図書）など。



書くことが、好きになる。
平成二十七年年度版『書写』のご紹介

新しい『書写』教科書が完成しました。どのような思いや意図が込められた教科書なのでしょうか。その魅力について語っていただきました。

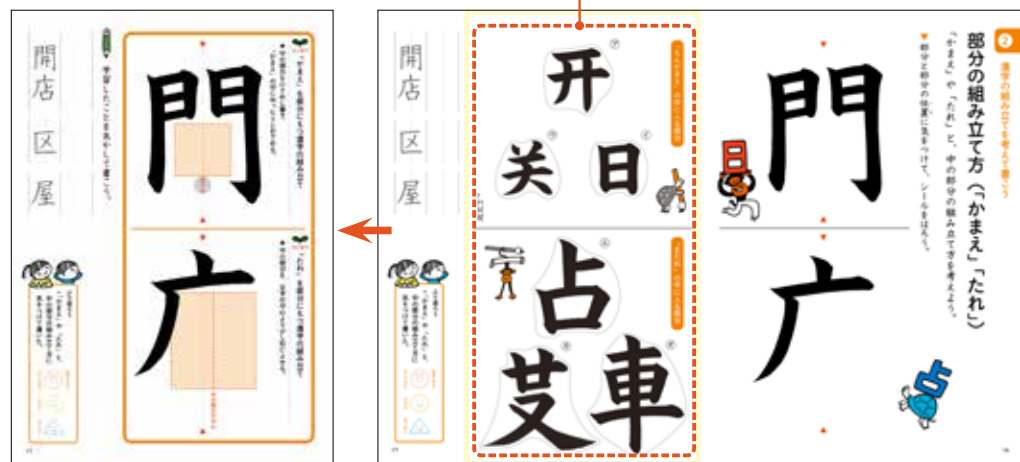


▲新版 1年P10-11



子どもの指の太さに合わせて新しく作った、なぞり書き用の文字です。文字の太さやキャラクターの動きで、「払い」の書き方を直感的に理解できます。

弱粘性のシールなので、繰り返し貼ったりはがしたりしながら、漢字の部分の組み立て方を体感することができます。



▲新版 4年P16-17

書写は、技能教科です。頭では分かっているけど、それを思いどおりに形として表すことができれば、目標が達成したといえます。そのための技能が必要なのです。技能を高めるためには、実践が求められます。ですから、書写の学習において、自分で体を動かして文字の形を理解し、覚えることは非常に重要な意味をもちます。新しい教科書では、それを促す工夫を豊富に用意しました。

例えば、低学年では、なぞり書きや空書きなど、体感しながら理解を深める学習活動を多く位置づけています。新しく作ったなぞり書き用の文字によって、子どもたちは、「止め」「はね」「払い」などといった筆使いを直感的に捉えることができるようになっていきます。

また、四年には、シールを使って、漢字の部分の組み立て方を考える教材を設けました。「かまえ」や「たれ」をもつ漢字は、わずかな位置の違いで、文字としてのバランスが大きく変わります。貼ったりはがしたりしながら、自分でシールを動かし、そのことを実感できる教材になっています。

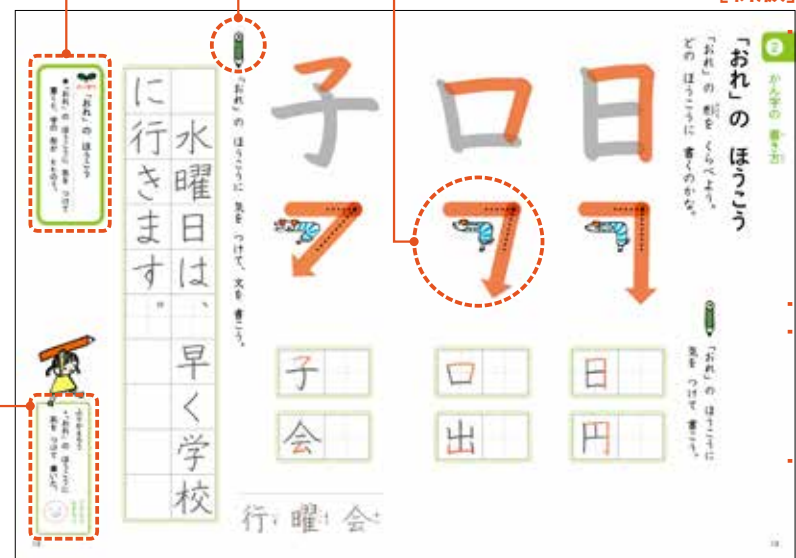
ポイント
体感的・直感的に理解できる

学習の成果、知識・技能の定着を確認できる「振り返ろう」。

光村図書『国語』教科書でも使われている「たいせつ」を設け、学習のポイントがひと目で分かるようにしました。

活動の内容がひと目で分かるマーク。

子どもたちの理解を助け、課題解決のヒントを与えるキャラクター。



主たる学習内容は、紙面上部に大きく表示しました。

関連事項は、紙面下部に表示しました。

◀新版 2年P12-13

[現行版]



[新版]

基礎・基本が、自然に身につく

ポイント
学ぶことがひと目で分かる

限られた授業時間の中では、学習効率よく進めていくことが求められます。子どもの側に立っても、「あれもこれも」と、一度に多くのことを学習するのは難しいでしょう。ですから、発達の段階に応じ、学習要素を焦点化する必要があります。

新しい教科書では、六学年すべての教材について、いちばん大切なことは何なのかを見直し、厳選するとともに、その示し方を工夫しました。

例えば、二年の「折れ」の方向についての学習。ここでは、横から縦方向への三つの「折れ」の方向の違いを大きく示し、その他の事例を下部に小さめに示しました。これにより、「折れ」の方向の、象徴的な違いを押さえることができます。現行版に比べ、大切なことがひと目で分かるようになりました。

ベテランの先生にとっては、ご自身のアレンジがしやすく、そうではない先生にとっては、指導事項がひと目で把握でき、授業が組み立てやすい紙面になっています。どのような先生にも、活用いただけるはずです。

▼新版 3年P16-17



国語と連動していることを示す「国語」マーク。

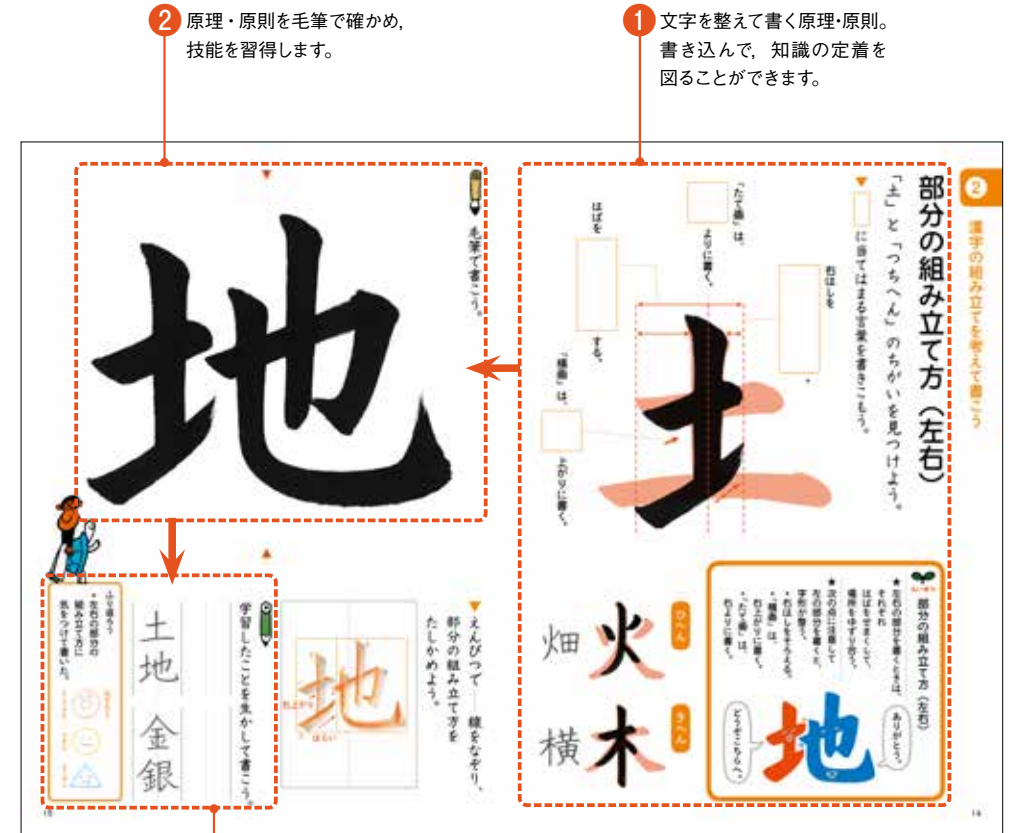
▼光村図書 国語教科書 新版 3年上P83



国語と一体的に扱えるよう、学習内容・題材・学習時期を一致させた教材を設けています。国語と連動させることで、学習活動への必然性や授業の時間配当に余裕が生まれます。



▼新版 4年P36-37



▲新版 4年P14-15

2 原理・原則を毛筆で確かめ、技能を習得します。

1 文字を整えて書く原理・原則。書き込んで、知識の定着を図ることができます。

3 他の文字への応用という実践的な硬筆学習によって、習得した知識・技能の定着を図ります。

書写の力が、日常に広がる

ポイント「書写が役に立った」と実感できる

▼ねらいと流れが捉えやすい紙面構成

文字を整えて書く「原理・原則」を書写の授業でせつかく学んでも、それが子どもたちの日常に生かされなければ、意味がありません。ですから、毛筆教材の場合、毛筆の後には必ず、日常的な筆記具である鉛筆での硬筆を経て、学習を終える授業展開が望ましいといえます。

三年以上の毛筆教材はすべて、1 原理・原則を理解する→2 毛筆で確かめ、技能を習得する→3 硬筆で技能を定着させるという流れになるよう、紙面構成を工夫しました。この作りは、学習のねらいが分かりやすいという点に加え、学習の終わりに日常的な「書くこと」につなげる授業がしやすいという点でも、使いやすく、学習効果を高める紙面であると思っています。

▼国語との連動

「国語科書写」ということから分かるように、国語の学習とのリンクは特に大切にしたいところです。新しい教科書には、光村図書『国語』教科書と連動させて使うことができる教材が各学年に用意されています。

意されています。書写の授業は、ともすると、「言葉」ではなく、文字という記号を書いているという感覚に陥ってしまいがちです。国語と行ったり来たりして学習を進めることは、子どもたちに「言葉の学習なんだな」と意識させるうえでもよいことだと、私は思っています。書写は、言語に対する感覚を養う学習の場であってほしいのです。

▼有効に活用できる巻末「資料」

さらに、新版からの新しい試みとして、各学年の巻末に、「資料」というページを設けました。手紙や原稿用紙、新聞など、他教科や日常の書く場面で必要とされる書式について調査し、いつでも参照できるように例を示したものです。先生方には、機を捉えてこれを活用し、書写の学習と子どもたちの日常をつなげていってもらえたらと強く願っています。

「書写で学んだことが役に立った」と実感し、書くことを楽しいと思う。新しい教科書を使って、そんなふうに子どもたちを育てていただけたら、こんなにうれしいことはありません。

「平成27年度版 小学校教科書のご案内」 特設サイトがオープン

小学校教科書「国語」「書写」「社会」「せいかつ」の
平成 27 年度新版の内容をご紹介しますサイトを開設しております（4月下旬公開予定）。
教科書の魅力をコンパクトにまとめた動画などを用意し、
短い時間でも内容が伝わるように工夫しました。ぜひご覧ください。

特設サイトトップページ



新版教科書 紹介ページ

ここから、新版の特長を詳しく解説したページに進むことができます。

豊富な ダウンロード資料

年間指導計画資料、「国語」の紹介図書一覧など、ダウンロードしてすぐに活用できる新版教科書用の資料をご用意しています。

教科書 紹介ムービー

見るだけで、新版教科書の内容が丸ごと分かります。映像とナレーションで、特色をご紹介します。

「国語」ムービー



「書写」ムービー



国語 平成26年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成26年度用教科書では、平成25年度用から以下の箇所を訂正しております。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には、十分ご留意くださいますようお願い申し上げます。

学年	巻	ページ	行など	25年度	26年度
2年	上	46-55	挿絵		原典に合わせて変更。
4年	上	108	筆者紹介	大島健甫 一九二四年、 ^{おかやま} 岡山県生まれ。作家。視覚障害者のテ ーブル雑誌を作っている。	大島健甫 一九二四～二〇一三年。 ^{おかやま} 岡山県生まれ。作家。視覚障 害者のテーパー雑誌を作っていた。
6年		220	右4段目 解説	「 ^{きも} 肝だめしの夜に」	「 ^{きも} 肝だめしの夜」
		252	筆者紹介	一九一三年、静岡県生まれ。	一九一二年、静岡県生まれ。

板書の文字、 気になったことは ありませんか？



宮澤正明 編

光村図書

定価：本体1,800円＋税

360ページ 四六判

ISBN978-4-89528-679-4

光村図書の書写ハンドブックの決定版！

- 光村図書「書写」教科書 編集委員による手書きの文字
 - 教科書体活字に即した書きぶり
 - 全文字に、間違いやすい部分に配慮した筆順分解を提示
 - 日常に役立つ、毛筆楷書、硬筆楷書、硬筆行書の3種を提示
 - 字形のポイント、許容についての図示
- ☆付録として「筆順チェックシート」も！

好評発売中！

新・字形と筆順

光村とひらこう。新しい学びの1ページ。

www.mitsumura-tosho.co.jp/27skyokasho